

結成宣言

私たちは本日、ジェイアールバス関東労働組合は、全ての仲間のために！～20春闘勝利！不当労働行為根絶！職場活動を基軸に安全なバスを走らせ、安心して働けるジェイアールバス関東を創造し、次世代へ豊かな地球環境・暮らしを継承するために、JTSU-Bへの結集を実現しよう！～の結成スローガンを掲げ、ジェイアールバス関東労働組合(JTSU-B)を結成した。

18春闘を境に、会社から職場活動の規制・排除と露骨な組合脱退強要が突如始まり、約400名の組合員がドミノ倒しの如く次々と脱退していった。JR東労組中央本部はこの現実に向き合わず、幻の労使関係を追い求め、ウソとゴマカシで組合員を欺き続けてきた。2019年11月11日には、バス棚倉分会の2名が家族と悩んだ末、仲間と組織の未来のために東京都労働委員会に「不当労働行為救済申立」を行った。JR東労組は、この決断に対しても「関係者の異動・処分は成果」「バス棚倉の問題は解決済み」「支持しない」と言い放ち、会社側に同調し封殺する強硬手段に出ってしまった。組合員の想いに立たず孤立させ、見殺しにした彼らはもはや労働組合としての機能性と存在価値を失い、終焉を迎えたと言える。

働き方改革が叫ばれる中で、日本の労働組合組織率は過去最低となる16.7%まで落ち込み、労働組合の存続は風前の灯となっている。ジェイアールバス関東会社は犯罪行為に手を染め、常軌を逸した不当労働行為と差別を止めることなく、非組合員化が目指されている。冷徹で金銭的な利害関係だけで組織化された「社友会」の加入者を増やし、労働者を守る法律が適用されない、物を言わない経営側に従属した社員づくりが画策されている。労働組合が機能しなくなった職場はパワハラ、いじめ、嫌がらせ、休日数の減少、サービス残業の常態化、賃金制度や労働条件の改悪、職場環境の悪化などが横行し、ブラック企業そのものと化してしまう。社友会が職場の諸問題解決に取り組むのは不可能だ。労働組合が存在感を示し機能するかは組織力が物を言う。会社や外部からの攻撃を跳ね返し、組合員と家族を守り安心して働ける職場を取り戻すため、労働組合法と第三者機関を有効活用しつつ仲間に寄り添い、新たな地平と未来を切り拓く労働組合を創造していこう。

職場では中期経営計画「アクションIV」に基づき、生産性向上を柱とした効率化施策が実施されている。要員不足が解消されない中での新規路線開拓、既存路線からの撤退、圧縮行路、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた成田空港線輸送改善の強行など間髪入れずに打ち出している。また働き方の多様化と乗務労働の特殊性を否定し、転勤することを前提とした社員運用の柔軟化が目指されている。効率化と経費削減だけが目的化され、現場の声を無視し経営に反映させないことにより度を越した労働強化が強いられ、労働者の疲弊は限界に達している。職場の実態を把握し、是々非々の立場で組合員の声に基づき団体交渉を強化していく。施策実施後も検証運動を通じて、組合員が働きがいを感じる業務内容と職場にしていけるかが新たな労働組合に求められる。業務課題解決に取り組んでいく姿勢が組織強化と拡大に繋がり、ゆとりある職場と私たちの明るい未来を切り拓く。

今、日本のバス業界にはオリンピック輸送を目前にして平均年収の低下、要員不足、離職率の増加、長時間労働が蔓延している。企業犯罪を黙認せず、拡大する格差と差別を無くし、公正で分かち合う精神で真っ当な労働組合としての姿・役割を追い求めていく。地方創生の一翼を担い、地域に根差したジェイアールバスを次世代に引き継ぐために、全組合の総力で職場を原点にたたかい抜こう。

以上、宣言する。

2020年2月17日
ジェイアールバス関東労働組合